

近代日本国家と天理教の時局対応

かねこ あきら
金子 昭 [著]

(天理大学附属おやさと研究所教授)

A5判・上製カバー・三二〇頁・本体六、〇〇〇円＋税

2026年1月刊行



天理教の独自概念〈時旬〉に注目し、近代日本の時局に対する教団の応答を追究。明治末期から戦後再建期までの言説・方策・実践を「論達」や『特高月報』などの資料から分析し、宗教と国家の緊張と共鳴を描く本格的な研究。

【目次】

序章 近代日本の時局と天理教教団	一 本書の意義と狙い	二 天理教の時局対応——国民道徳運動から国民精神総動員運動に至るまで——	三 日本人更生運動の展開	四 教えの「二重構造」という問題
第一章 天理教と国民道徳運動——明治末・大正初期の時局対応——	はじめに	一 明治末期から大正中期にかけての時局対応の概観	二 国民道徳運動との呼応について	三 時局表明の論説
第二章 天理教の「大正デモクラシー」——大正中期の時局対応——	はじめに	一 天理教における大正時代の		
概観	二 大正デモクラシーに対する天理教の対応	三 社会問題と天理教	四 「世直りの旬」——天理教独自の時局観の台頭——	
教の記事	三 「思想月報」における天理教の記事	四 「思想月報」の「天理教」関係記事より——とくに「革新」をめぐる調査——		
第三章 治安維持法体制下の天理教——大正後期から昭和初期の時局対応——	はじめに	一 大正末期から昭和初期にかけての時局対応の概観	二 国民精神作興運動との呼応	三 教祖四十年祭前後の時局対応
第五章 戦時体制から民主体制への大転換期の中の天理教——昭和一〇年代後半から二〇年代初期の時局対応——	はじめに	一 戦争末期から終戦直後にかけての天理教	二 戦時体制と天理教	三 敗戦の衝撃と過渡期の言説
第四章 『特高月報』『思想月報』に見る天理教——政府による干渉と教団の対応——	はじめに	一 戦前の公安・治安維持の担い手と特高警察	二 「特高月報」における天理	
第六章 国策とユートピア建設——満州天理村の実現と終焉——	おわりに	五 終戦後の教団体制の立て直し	六 戦後の時局対応の論説	
結語 時局と〈時旬〉——戦後八〇年目の歴史的教訓——				
参考文献				
索引				

【著者略歴】

1961年奈良県天理市生れ。慶應義塾大学大学院文学研究科修了（哲学博士）。天理大学附属おやさと研究所教授。専門は倫理学、哲学の人間学、宗教社会福祉論。天理教に関する主な著作に『天理人間学総説——新しい宗教的人間知を求めて』（白馬社）、『天理経営論総説』（天理大学出版部）、『駆けつける信仰者たち——天理教災害救援の百年史』（天理教道友社）、『天理教台湾伝道史』（共編、天理教台湾伝道史編集委員会）、『天理教社会福祉の理論と展開』（共著、白馬社）がある。

ご注文は FAX:075-371-0458

法藏館

〒600-8153 京都市下京区正面通烏丸東入
TEL 075-343-0458 FAX 075-371-0458
http://www.hozokan.co.jp info@hozokan.co.jp

近代史・宗教

注文書	
(書店名)	
様	冊
ご担当	
法藏館	六、〇〇〇円＋税
金子 昭 [著]	近代日本国家と天理教の時局対応
ISBN978-4-8318-5744-6 C3021	
お名前	お住所
お電話	